

**令和5年度文京区アカデミー推進協議会  
第1回分科会(スポーツ分野)概要記録**

日 時	令和5年8月9日(水) 18:25～20:25
会 場	文京シビックセンター17階 1701会議室
出 席 委 員	座長 青木 和浩 脇 弥恵子、石田 廣行、五十嵐 幸輝
欠 席 委 員	井上 充代
事 務 局	高橋アカデミー推進部長、野苺家アカデミー推進部スポーツ振興課長、 熊倉スポーツ振興課スポーツ振興係長、高橋スポーツ振興課施設等担当主査
資 料	次第、令和5年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。)資料第2-1号、資料第2-2号
(議事) 1 議題  ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 令和4年度の事業実施状況の点検・評価について</p> <p>① <u>分野別基本方針</u> <u>だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。</p> <p>◎初心者向けスポーツ教室を様々開催しているが、継続させるためには、実施団体と継続方法を検討することが非常に重要だと感じた。初めて接したスポーツを続けることを目指すことは重要なポイントだと考える。スポーツ体験教室でも、次に繋げる手助けが難しいので、行政が取り組むことで、スポーツを楽しむ人が増えると思う。</p> <p>◎初心者向けスポーツ教室について、目白台運動公園で開催されたラグビー体験に子どもたちと参加した。実際にボールを使って、トヨタの現役選手、OB選手がリフトなどをしたため、子どもたちは大変喜び、人間性を育む非常に貴重な経験となった。また、35ページにある「地域のスポーツ団体等との連携による事業展開」について、東京ユナイテッドFCによるサッカー教室に息子と参加したが、小さい子どもは、見るより実際に体験することで関心を持つので、そうした機会を提供してもらえることは大変ありがたい。更に、パラスポーツなども、子どもたちが体験できる企画があると、スポーツを通じて障害に対する理解が深まるので、そうした取組も大変重要だと感じた。</p> <p>◎スポーツを身近に感じる上で重要なのは、スポーツを初めて知る機会だと思うので、長い説明ではなく、短い動画をツイッター等のSNSで広報するのが良いと考える。また、学習活動分野にも関連するが、文京eラーニングの項目にスポーツ分野を盛り込むのも良いと思った。また、初心者向けスポーツ教室では、個人で簡単に始められないアーチェリー等が行われているが、サッカーやバスケ等の有名スポーツも、集団競技であるが故に、個人で簡単に始められないと思うので、これらの機会の創出も大事だと思う。スポーツに対する最初の接触を、ホームページの検索など、区民の自発的なアクセスに期待するのは難しいので、日常生活の中で目に付くよう、公共交通機関、飲食店、商業施設などの日常の動線に広報を展開することが必要ではないか。</p>

◆初心者向けスポーツ教室は、総合体育館等の区内施設を活用し、スポーツに慣れ親しむ事業を展開している。なお、初心者向け教室以外にも、ジュニアフットサルスクールや、チアダンス教室、子ども空手スクールなど、子どもや親御さんに大変人気な事業を展開しており、大勢の人目に付く広報という意見を参考に、今後の周知活動を進めていきたい。

◆eラーニングではないが、腹筋の動画など、動画発信についても実施している。

◆継続性は大変重要だと考えており、魅力的な事業を続けていけるよう、見せ方や内容の工夫を皆様と考えていきたい。また、地域のスポーツ団体等との連携による事業展開は、本区の強みだと考えているので、引き続き、子どもたちに喜んでもらえる事業を展開したい。事業の発信について、意見にあるような日常の中での発信も有効だと感じたので、手段は様々だが、必要なことと認識して進めていきたい。

◎初心者向けの教室は、よくできている印象だが、種目の偏りに注意したい。また、事業の広報には工夫を凝らしてほしいという意見があった。区民のユニバーサルスポーツ、インクルーシブスポーツ体験などへの参加率はとても高い一方で、継続性については、次のステップへの重要な課題と捉えている。スポーツを身近に感じる機会の拡充に関しては、概ねできているとの評価だった。

② 分野別基本方針 いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎本区は大人が多いのに、スポーツ事業は子ども向けが多いと感じる。何かスポーツをしたいと調べても、体操教室などは平日の昼間が多く、大人にいつまでもスポーツを楽しむ機会を提供できていないと感じている。基本方針①で別の委員から、集団競技の相手探しという意見もあったが、実際にSNSでテニス相手を探すケースもあるようで、区内施設で日時を決め、参加者を募集するのもいいと思う。大人であれば、1人で参加することも可能なので、継続につながるのではないかと。親子向け教室では、子どものスポーツを親が見ている構図になってしまうが、親にもスポーツをする機会を提供することにより、いつまでもスポーツに親しむことにつながれると思う。

◎40ページの親子向け教室について、指標が参加者数となっているが、落選者が出ているとあるので、参加者数は目標値を常に達成している状況ではないか。アンケートで肯定的な評価とあるので、参加者数を指標とするか、アンケート結果の満足度などを指標とするかは、両面の要素があると思う。また、37ページのボランティア情報の提供でも、指標が事業件数となっており、事業内容にもよるが、ボランティアに何人が参加したかが、目標値として設定できるのではないかと。更に、38ページの地域スポー

ツ団体への支援・育成の補助金申請が11件というのは、令和5年度以降の目標が20件となっており、多いか少ないか、また少ないのであれば、発信にもつながる話だと思う。

◆参加者数を指標として用いているのは、比較的定量的であり、出しやすいためである。ただ、同時に満足度を上げていくことも重要だと認識しており、本来であれば両方指標とすることが望ましいが、現状では人数を指標としている。また、補助金の申請11件について、この「RE:スタート補助金」は、主に文京区体育協会加盟の33団体を母数としている。最後にスポーツボランティアについて、協力事業件数18件とは、18事業にボランティアとして参加し、現在ボランティアの登録者が約150名となっている。しかしながら、参加者の固定化が課題だと認識しており、参加者数増だけでなく、気軽に参加できる取組が必要だと考えている。

◎様々な取組があり、区民としてありがたいと感じている。ただ、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりは、卑近な言葉で言い換えると、いつでもふらっと手ぶらでできることだと思っており、そのためには、①大人でも参加できる時間帯であること②器具等の貸出が充実していることが必要だと考えている。また、スポーツは魅力的な部分ばかり強調される一方で、安全の確保という視点も大事だと思う。例えば、区立小中学校の体育館や校庭の活用について、利用者が怪我した場合の対応について、事前の準備が必要だと思う。

さらに、周知について、事業数が多く情報がありすぎるので、区民の能動的なアクセスに頼るのではなく、スポーツに関するイベントが一覧で分かるアプリやカレンダーなどの活用があるといい。

◆スポーツによる心身の健康づくりで、区内スポーツ施設及び区立小中学校の校庭などを開放して、子どもから高齢者まで様々なスポーツ活動の場を提供している。具体的に屋内スポーツ施設を上げると、昨年度は総合体育館で7,500人近く、スポーツセンターで10,000人を超え、江戸川橋体育館では5,000人近くが、そうした事業へ参加した。長く続けて親しめるよう、魅力的な事業を推進するとともに、そうした情報を集約することも重要な課題と認識し、分かりやすい情報提供を検討していきたい。

◆大人が気軽に参加できる事業を、工夫して実施する必要があると認識している。夜の時間帯に開催している事業もあるが、事業数が少ないことと、周知が図れていないことが課題である。また、スポーツボランティアについては、登録者の高齢化という現状もあるが、ボランティアをきっかけに、スポーツ活動に広がったり、ボランティア活動に広がる効果もあるので、大学生などの若年層へ積極的に声掛けし、可能性を広げていきたい。

◆区の多くの事業は、区内のスポーツ団体などのほか、ボランティアやスポーツ推進委員などの協力があって実現できている。ただ、対象者が子どもや高齢者に偏って

いる現状もあるので、意見を踏まえ大人向けの事業もスポーツを「いつまでも」続けるという視点から大変重要だと感じるので、検討していきたい。

◆基本方針②では、大人向け事業の拡充や、事業展開しているが、情報の入口が分かりづらい、気軽に手ぶらで参加できるような環境が足りないといった意見は、指摘の通りだと認識しており、今後ブラッシュアップする必要があると感じた。参考までに、大人対象の事業として、東京ユナイテッドFC協力のもと、仕事帰りに参加できるよう、「大人のサッカー広場」を実施している。また、出勤前に参加できるようなヨガなどの「朝活」にも取り組んでいる。ただ、事業が認知されていないことは情報発信が足りない点に繋がるので、情報発信に注力し事業を展開していきたい。

◎情報発信については、毎度課題となっており、時代に即した方法が重要である。他の行政と比べても、区はスポーツ事業が非常に多い。また、様々なプロスポーツ機関や大学、それから指定管理者の独自事業などがあり、施設利用率も100%に近く、他と比べて高い。ただ、先ほどより意見のある、事業が多すぎて周知が追い付いていないことが落とし穴であり、周知の仕方は重要だと思っている。なお、スポーツボランティアの登録が約150名というのも、他と比べると多いが、高齢化も事実なので、若年層への周知もポイントだと思う。また、ふらっと運動できる点も、本区らしくて良いと思う一方で、同時に安全性の確保も重要である。

指標については難しい問題で、アンケート評価を重視するか、人数を重視するか、目標値の妥当性はどうか、目標値を下回ったとき本当にいけないのか、総合的に鑑みなくてはいけない部分もあるため、事業を縦や横に総合的に評価することは、行政評価の限界でもあると思っている。しかし、子ども対象の事業ばかりで大人が置き去りとのコメントは重要であり、協議会の評価に反映していただきたい。

### ③ 分野別基本方針 スポーツの力を活用した地域づくり

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎基本方針③にある主要事業を地域づくりとして捉えるのは難しい。例えば、地域で実施する各種スポーツの区民大会、都民大会へ、区民が参加できる仕組みづくりが地域づくりにつながるのではないか。大会となると、経験者でないと参加しにくいのが、区で実施している様々な教室の参加者を、地域の大会へ繋げることで、地域的につながりを持った活動になると思っている。

◎区のラジオ体操に参加すると、実際に多くの高齢者が参加しており、高齢者に向けた運動の機会は非常に大事だと感じるとともに、定期的に参加することで顔なじみが増え、ラジオ体操以外でも交流が生まれるなど、仲間づくりが地域づくりにつながっていると感じた。

◎スポーツを活用した地域づくりで最初に浮かぶのが、コミュニティ形成だと思う。た

だ、せつかく区が場所を提供して事業に参加してもらっても、それだけではコミュニティの形成には繋がらない。参加者の間に入り人と人をつなぐ指導者など、上手くコミュニケーションを繋ぐ人材が重要だと思っている。例えば、基本方針②の主要事業にあった指導者研修等で、コミュニケーション能力の観点からもスキルを向上させるといった支援があってもいいのではないか。

43ページ「地域スポーツ団体の支援・育成」に、自主的なスポーツ活動を行う団体とあるが、この団体とは何を指すのか、団体としての要件はあるのかお聞きしたい。また、この団体を育成するとあるが、育成とは何か。

◆団体とは体育協会に加盟の33団体を指しており、育成という言葉を用いているが、ゼロからの団体育成という意味合いではなく、既存団体への支援である。育成とは広く支援と捉えていただきたい。

◎本区ではないが、母がラジオ体操に参加しており、骨折で動けなくなった際、買い物など身の回りの手助けをしてくれたのが、ラジオ体操仲間だったと聞き、実際にスポーツの取組が地域づくりに効果があると実感した。

◆「大人のサッカー広場」について、今年の参加者は延1,141人と大変好評を得ており、事業参加によって横のつながりができ、コミュニティができることもあるので、今後も、指定管理者と相談し、利用者アンケートの内容や利用者懇談会での意見を参考に、事業のブラッシュアップにつなげていきたい。施設利用者も、コロナ渦前の水準に戻りつつあるため、地域コミュニティの更なる活性化につなげていきたい。

◆スポーツを通じた地域づくりには継続性が非常に大事だとの意見を聞いて感じた。前の基本方針での意見につながるが、各スポーツ団体との協働事業が多くあるが、知られていない事実もあるので、発信に努めるとともに、スポーツを始めるきっかけやスポーツの楽しさを、次のステップに繋げていきたい。今後、多くの世界大会が予定されているので、大会終了後も継続してスポーツへの機運が盛り上がるよう事業展開していきたい。また、実際の経験で、子どもたちのスポーツの機会を守る取組が、子どもたちの保護者のコミュニティ形成に繋がったということもあり、そうした支援を区でも出来たらいいと思った。

◆区には、読売巨人軍をはじめ、スポーツ資源が贅沢にあり、こうした団体との協働をもっと周知していきたい。また、本区はラジオ体操発祥の地でもあり、ラジオ体操から生まれるコミュニティもあるので、今後も積極的に発信していきたい。

◆ラジオ体操発祥の地ということで、現在、文京ふるさと歴史館では「文京のラジオ体操」という企画展を実施している。発祥の地と知らない方も多いため、情報発信につながることを認識している。

また、地域コミュニティに関して、年に一度大きなラジオ体操祭があり、毎年盛況だ

	<p>が、今年は高齢者だけでなく、子どもたちにも多く参加してもらえよう、区長からのメダル授与イベントも行われた。地域の高齢者と子どもたちを繋ぐ役割をスポーツが果たす取組を続けていきたい。</p> <p>◎ラジオ体操発祥の地をスポーツだけでなく、区の文化として捉えていく考え方があっていいと思う。スポーツを通じた地域づくりについて、スポーツの指導現場では、体力向上や安全配慮に重きを置きがちだが、一方で人と人との繋がり方、コミュニケーションスキルを育むことも、ソフト面での支援になるのではないかと。本分野のコミュニティ形成といった部分では、まだ改善の余地があると総括できる。</p> <p>また、2020大会のレガシーをどのように活用するか、我々評価する側も考えなければならないスポーツ分野へ求められる点だと思う。</p> <p>全体を通しての意見</p> <p>◎本分科会で初めて知ったことも多く、事業運営も大事だが情報発信も大変重要であり、スポーツ資源に恵まれているので、点が線になるよう上手く連携できると良いと感じた。</p> <p>◎区として多様な事業を展開しつつ、様々な課題を認識しながら取り組んでいることは素晴らしいことだと思う。</p> <p>◎区の潤沢な資源、積極的な取組を知ったことで、改めて区民で良かったと感じた。繰り返しにはなるが、基本方針①について、如何にスポーツを区民の目に触れさせるかが重要なポイントだと思っているので、今ある素晴らしい事業をより多くの区民に知ってもらえると良いと感じた。</p>
2 閉会	